

基本情報技術者試験合格に向けたアプローチ手法の検証(1)

情報技術科 大池 勇介 大蔵 将利

1 はじめに

近年、国内におけるIT系の人材不足が問題視されており、本校においても直近の就職率や学生の技術習得レベルを鑑みるにやはり捗々しくない状況にあることがわかってきている。具体的に関連するデータを参照してみると15年前の基本情報処理技術者試験の合格者は5名に対し、昨年度の合格者は一人もいない。

そこでITの知識・技能に関する共通の評価指標として活用されている「基本情報技術者試験」に合格することで、対外的に学生のITスキルをアピールしやすくなるを考え、本研究の目的である「基本情報技術者試験合格に向けたアプローチ手法の検証」に着手した次第である。

2 学生の状況等

2.1 受験経験と受験予定者の理由

本年度在学中の情報技術科1年生36名(長期欠席を除く)に対し、2021年1月に本試験を既に受験した経験はあるかどうかについてアンケート調査を実施したところ、36件の回答のうち1名が「受験した経験がある」と回答した(受験率2.8%)。また、56.6%の学生が2021年の情報処理技術者試験を受験予定であることがわかった。これに対する受験理由は「就活に有利だから」という回答が31.6%を占めている。これらの回答結果から、本試験について合格したいと考えている者が受験予定者の過半数を占めており、なおかつ資格自体が就職活動に優位に働くという事実についても広く認識されていると考えられる。

2.2 受験しない理由

続いて受験しないと回答した理由についてだが、「学力不足により不合格になる」と回答した者が94.1%を占め、「受験することに価値がない」と判断した者や「経済的に仕方なく受験できない」と回答した者が存在しないことも併せてわかった。

つまり受験する予定がないと回答した者も合格できるレベルに到達すれば、積極的に受験したいと考えている者が多いと思われる。

2.3 苦手分野

図1に示すように、「現在のレベルでは受験しても不合格になりそうだから」と回答した者に向けて「どの分野に苦手意識があるか」について質問したところ、テクノロジー系に続きストラテジ系とマネジメント系と全ての分野にて苦手意識が分散していることがわかった。

ここで、既に1年次に履修した授業にて学習済みであるテクノロジー系やマネジメント系と比較して、2年次に学習するため未学習であるストラテジ系との間に苦手意識について大差がない点について注目すべきであると考ええる。

このデータより1年次の授業カリキュラムで指導した内容に対して理解度が低いことが分かる。

さらに日頃の授業風景を観察していると、苦手な分野を反復学習することを怠っている学生が多いように感じられるので、例えば単に反復学習を推奨するのではなく、比較的成績が低い学生が集中して取り組んでいるタイピング練習という行動に注目し、タイピング中に画面に表示されるテキストをよく間違える問題の問題文と正答のペアにして表示させるなど、学生にとって自発的に学習できる環境を用意することも効果的なのではないかと考えている。



図1 アンケート調査結果(問6 苦手分野)

2.5 受けてみたい授業内容

具体的に受けてみたい対策講座としてリクエストを募集したところ、午後問題等の模擬試験と解説をセットにした講座を受けてみたいといった回答が多く挙げられていることがわかった。

3 今後の予定

今回の調査結果や担当した試験関連科目の実績などを踏まえると情報処理試験合格率を向上させるための施策を講じるために必要な情報源としては十分なデータが収集できたといえる。

今後はアンケート調査結果をベースとして策定したロードマップを活用した授業や、マネジメント系の知識を模擬実務として体験し、イメージから連想した覚え方を定着させることを目的とした授業展開を行う。また、夏休み期間中に授業時間内に収まらなかった知識の補完を行うことも併せて実施したい。